

平成20年度

事業計画書

社団法人 日本キャンプ協会

平成20年度 社団法人 日本キャンプ協会 基本方針

日本キャンプ協会は設立以来、キャンプの持つ大きな可能性を用いて、人々のあいだに健康で豊かな心身の発達に資するための事業を展開してきました。一方、中央教育審議会教育課程部会は、第15期中教審答申によって取り上げられ、現在まで取り組みが行われてきた「生きる力」を育む手だてについて、5つの課題をあげています。

そのうちの一つに「豊かな心や健やかな体の育成について、家庭や地域の教育力が低下したことを踏まえた対応が十分ではなかったこと」をあげ、明らかに学校外での教育力の低下をもその阻害要因の一つに数えています。（教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ=平成19年11月）

こうした報告を見聞きするにつけ、家庭や地域の教育力を高めたり、子どもたちの「生きる力」を育むことは日本キャンプ協会の使命と重なるものであることを認識せずにはおれません。もちろん、キャンプは子どもたちのためにのみ存在するのではなく、すべての世代の人々のためにそして様々な環境や状況のもとにある人々に必要とされる営みです。

従って、私たちはこのような時代にこそ、キャンプの力によって個々の成長を促す指導者の存在に期待がかけられていることを認識し、キャンプ指導者の育成・活用に大きな力を注がねばなりません。

よって、平成20年度は「Camping for All」の呼びかけが単なる言葉に止まらず、実質を伴った働きとして広く深く地域に浸透していくこと。また、公益法人改革に伴う組織の諸整備を着実に果たすことを基本の取り組みとして次のように事業を展開していきます。

1. キャンプが人々の暮らしや個人の成長にとって効果的かつ有益であることを知らせる努力をする。
 - ・ キャンプの楽しさや有用性をより多くの人々に知らせる。
 - ・ 社会のニーズに応えられる指導者の育成に力を注ぐ。
 - ・ 団塊の世代と少子化世代に応じたプログラムの開発を行う。
 - ・ デイキャンプ、環境問題、国際交流等の新しい取り組みのためのアクションプランを作成する。
2. 事業展開の最先端を担う支部協会が、元気な活動を続けられるよう支援体制づくりを推進する。
 - ・ 支部協会の行う多様な事業実施に必要な支援（人的、知的、財的）を行う。
 - ・ 指導者自身の理論的、技術的レベルアップに合わせて、地域の人々と協働しながら社会貢献の出来る人材を継続して育成する。
 - ・ 協会単位、ブロック単位の事業を有機的かつ効果的に繋ぐ役割を果たす。
 - ・ 支部運営の基本的なノウハウや備えなければならない規程等の整備を支援する。
3. 公益法人改革に向けて組織の整備を行う。
 - ・ 将来を見据えた組織のための諸規定の整備を行う。
 - ・ 理事会、専門委員会等の構成について整備を行う。
 - ・ 支部未設置県への積極的なアプローチを行う。
 - ・ 野外活動や青少年を対象にした諸団体との協働が可能な組織作りを行う。
4. 朝霧野外活動センターの可能性を引き出す管理運営を行う。
 - ・ キャンパーズファーストの理念に立って快適なサービス提供を行う。
 - ・ 朝霧野外活動センターをキャンプの新しい活動や研究・実践の拠点とする。
 - ・ センターを支えるボランティア、地域との連絡を密にし、良い関係性を維持する。
 - ・ 指定管理者として適切な施設運営を行うためにスタッフの資質の向上に努める。

平成20年度 事業計画

1) 普及サービス事業

キャンプが持つ「人々の成長に及ぼす力」を広く社会に向けてアピールするために、愛好者や関係団体に止まらず一般市民に向けた事業展開を図る。また、会員や支部協会を含む団体会員に向けたサービスにも力を注ぎ、キャンプの活動を通してキャンプの意義や楽しさが広く社会に理解され、キャンプ指導者が社会貢献の役割を担う事が出来るよう事業展開を行う。

1. 「第18回 全国キャンプ大会 in ながさき」の実施

キャンプは環境教育、青少年育成、生涯学習などにおいて重要な役割を持っている。全国キャンプ大会は、全国のキャンプ指導者やキャンプ愛好者が一堂に会して交流を深めつつ、日頃の研鑽の結果を発表し、情報を交換することで、今後のさらなる社会貢献の道を探る機会として実施する。

テーマ：来て！見て！体感！よかところ！

期 日：平成20年11月1日（土）～11月3日（月・祝）

会 場：国立諫早青少年自然の家（長崎県諫早市白木峰町）

対象者：全国のキャンプ指導者・キャンプ愛好者（300名）

主 催：（社）日本キャンプ協会

主 管：長崎県キャンプ協会

後 援：文部科学省 長崎県 長崎県教育委員会ほか（予定）

協 力：各都道府県キャンプ協会

2. 「自然体験活動青年ミーティング2008」の実施

自然体験活動における若い指導者の育成は、今後の展望を拓く上で最重要の課題のひとつである。自然体験活動青年ミーティングは、すでに自然体験活動の分野で活動している青年や、これから活動を始めたいと考える青年が集い、野外技術や実践理論を学びながら2泊3日の生活をともにすることで、自然体験活動の幅広い展開に寄与する「つながり」を形成する機会として実施する。

*開催においては「子どもゆめ基金」に助成の申請を行う。

期 日：平成20年9月20日（土）～9月22日（月）

会 場：静岡県立朝霧野外活動センター（静岡県富士宮市）

対象者：おおむね30歳未満の自然体験活動指導者ならびに自然体験活動に関心を持つ若者（120名）

主 催：（社）日本キャンプ協会

（自然体験活動青年ミーティング実行委員会を組織し、企画・運営にあたる）

内 容：講演・ワークショップ・トークセッションほか

後 援：日本アウトドアネットワーク、(財)ボーイスカウト日本連盟、(社)ガールスカウト日本連盟、日本環境教育フォーラム、(財)東京YWC A、(財)日本YMCA同盟ほか（予定）

3. デイキャンプ・週末子どもクラブの普及

子どもたちに身近な地域における自然体験活動の場を提供するために、「週末子どもクラブ」の普及活動を行う。また、子育て世代に手軽で安全で楽しいプログラムを提供したり、仕事を離れた団塊の世代に新しい余暇の過ごし方を提案したりするものとして、デイキャンプの普及活動も進める。

- ・ 週末子どもクラブを対象とした「キャンプ支援事業」の実施
- ・ 小冊子「週末子どもクラブをつくろう！（仮称）」の配布と活用

4. 「第8回キャンプ場ミーティング」の実施

「キャンプ場からアウトドアの未来を考える」を基本コンセプトに、キャンプ場・野外活動施設関係者が集い、講演や討議、情報交換を通じて、キャンプ場・野外活動施設運営のノウハウの共有を図る。

今年度も本会が指定管理者として運営・管理している朝霧野外活動センターで実施し、広く野外活動施設の運営について考えるつどいとしたい。

期 日：平成20年6月16日(月)～17日(火)

テーマ：キャンプ場のリスクマネジメント(仮)

会 場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)

対象者：全国のキャンプ場・野外活動施設の管理者・職員、キャンプ指導者

主 催：(社)日本キャンプ協会

内 容：講演・事例発表・分科会・展示ほか

5. キャンプ・アカデミーの実施

1975年から長きにわたって開催されてきたキャンプ・アカデミーは、日本のキャンプ・ムーブメントの中核となる指導者の育成に大きな役割を果たしてきた。少子高齢化を中心とする大きな社会の変化の中、キャンプを取り巻く環境、キャンプに求められる社会的役割も大きく変化しており、その変化に応える指導者育成の機会として新キャンプ・アカデミーを実施する。

内容は「組織キャンプの基礎を学ぶ」「キャンプに関連する新しい社会事象・取り組みを学ぶ」「キャンプによる社会貢献を考える」の3本を軸に、キャンプ指導者に対する情報提供を行うと同時に、教育関係者や福祉関係者にキャンプが広く門戸を開いた活動であることを知ってもらうきっかけとする。

期 日：平成21年2月・3月(予定)

テーマ：「組織キャンプの基礎を学ぶ」「キャンプに関連する新しい社会事象・取り組みを学ぶ」
「キャンプによる社会貢献を考える」(仮)

対象者：キャンプ指導者

主 催：(社)日本キャンプ協会

6. 公共団体、関係団体、企業等の行うキャンプ・野外活動の事業受託および後援・協力

キャンプの企画、運営受託や各種キャンプ関連事業に対する講演や講師派遣などの協力をする。このことによってキャンプの普及を図るとともに、新しい社会的課題に触れ、キャンプの新たな社会貢献の可能性が生まれること、また、指導者資格を有する会員の活躍の場が広がることも期待する。

・Jリーグよりのキャンプ指導受託

2008年度(社)日本キャンプ協会会員証

毎年発行される会員証のデザインは一般に公募して決められています。

2008年度のデザインは佐々木彩乃さん(宮城県)の作品が採用されました。

デザインについて(佐々木彩乃さんのコメント)

メインカラーのオレンジは太陽をイメージしました。

太陽は自然界にとって非常に重要な存在でありアウトドアにとっても大変重要な意味を持つと考えました。

左下に配置した新芽は、陽射を浴びて元気に育っていく子ども達の未来を表現しました。自然と人々が共存していく本来の素晴らしさを将来に伝えられるようお願いをこめて・・・



2) 指導者養成に関する事業

平成18年度よりスタートした新指導者養成制度において、ディレクター2級・1級についてはカリキュラムと養成講習会が連動し、学習内容が整理された。しかし、講習会の受講要件や受講者確保の方策については今年度も継続して検討を重ねる必要がある。また、指導者養成事業の基礎であるインストラクター養成は、そのまま協会運営の根幹となるものでもあるので、丁寧なねばり強い作業を目指したい。また、本年度も課程認定団体との連絡・調整を密にしながら、指導者自身が研鑽を積む機会と場を作り出すことにも力を尽くしていく。

1. 指導者養成講習会

キャンプディレクター2級(PD)養成講習会(全国6ヶ所)

会場	日程	主管支部	場所
北海道・東北	9月13日～15日	福島	国立磐梯青少年交流の家
九州・沖縄	9月20日～22日	福岡	国立夜須青少年自然の家
近畿	10月17日～19日	大阪	大阪府立総合青少年野外活動センター
中国・四国	10月24日～26日	山口	宇部市青年の家
関東	09年1月10日～12日	千葉	千葉市少年自然の家
中部・北陸	09年2月6日～8日	愛知	愛知県立美浜少年自然の家

キャンプディレクター2級(MD)養成講習会(全国4ヶ所)

会場	日程	開催形式	場所
東京	7月5日・7月6日	通い型	国立オリンピック記念青少年総合センター
福岡	9月20日～21日	同時開催	国立夜須青少年自然の家
大阪	10月18日～19日	同時開催	大阪府立総合青少年野外活動センター
愛知	11月29日・30日	通い型	熱田神宮 文化殿会議室

キャンプディレクター1級養成講習会(全国2ヶ所)

会場	日程	場所
西日本	10月9日～13日	大阪府立総合青少年野外活動センター
東日本	11月20日～24日	静岡県立朝霧野外活動センター

キャンプディレクター1級検定会(全国2ヶ所)

会場	日程	場所
東日本	09年1月17日～18日	国立オリンピック記念青少年総合センター
西日本	09年1月24日～25日	大阪府内

2. 指導者の審査・認定

資格申請者の審査・認定

指導者資格の更新

課程認定団体の審査・認定

課程認定団体との連絡・調整

3. 指導者養成講習会の受講要件や受講者確保の方策についての検討

4. 「青少年体験活動総合プラン」による自然体験活動指導者の養成

文部科学省の「青少年体験活動総合プラン」を受けて、小学校が実施する1週間の自然体験活動を支援するための指導者養成を行う。このことにより、全国の小学校が行う自然体験活動に専門的な知識と技能を有する指導者を派遣することが可能となる。(全国8か所程度で実施)

*文部科学省「青少年体験活動総合プラン」の企画競争に応募し、委託が決定次第実施する。

5. 野外活動指導者研修会の開催

全国の野外活動の現場に立つ人々を対象とし、文部科学省・野外活動団体連絡協議会との共催で最新の技術や情報を発信する研修会を行う。

期日・会場：未定

主催：文部科学省・野外活動団体連絡協議会・県教育委員会・国立青少年教育振興機構

3) 安全管理に関する事業

野外活動の大切さが社会に理解されてきている反面、野外での事故のニュースを多く目にするようになってきた。適切な安全管理のもとで楽しいキャンプが行われるようにするため、一般のキャンプ愛好者に対してリスクマネジメントの考え方を広め、キャンプ指導者のさらなるリスクマネジメント能力の向上を目指さなければならない。

本年度は、リスクマネジメント能力向上のための学習が広く行われ、安全管理に関する情報が常に提供される状態が作られていくことを目指し、以下の事業を行なう。

1. 安全に関する情報、事故事例の収集・分析・公開

起こってしまった事故の情報を得て、事故を繰り返さないようにすることは重要である。得た情報を分析し、ホームページや冊子等で情報を公開し、野外活動指導者や愛好者に情報を提供する。

- ・他団体との交流会を行い、情報交換、情報の共有をする。

情報入手ルートの確立

- ・野外活動等で発生した事故やけが、ヒヤリ・ハット体験など、情報を広く入手する。
- ・オフィシャルレポーター等から情報収集を継続する。

事故の調査・検証

- ・調査・検証が必要だと思われる事故が起きた時、実際に事故現場を訪れ、原因の調査・検証を行う。

情報の公開

- ・他団体から得た情報や調査・検証した情報を「キャンプ研究」やホームページの最新情報、メールマガジン等で公開する。

2. キャンプ安全マニュアルの作成の検討

キャンプ指導者・キャンプ場等の安全意識を底上げし、野外活動が広く、安全に行われるようにするため、キャンプ安全マニュアルを作成する。

キャンプに関して、指導者に関して、さまざまな視点から、キャンプの安全を補えるものを目指し、今年度は内容を検討する年とする。

3. 安全思想の普及(キャンペーン)

野外活動指導者や愛好者が、普段のキャンプを振り返る機会となり、常に安全を意識してキャンプが行えるよう「キャンピング・セーフティー・キャンペーン」を継続して実施する。

- ・キャンペーンの名称 - 「Camping Safety 2008」
- ・キャンプ安全の日 - 7月20日(日)【毎年7月の第3日曜日】
- ・キャンプ安全キャンペーン期間 - 7月1日～8月31日(毎年)
- ・安全なキャンプのための標語(第4回)を募集する。部門は一般・少年少女の2部門とする。
- ・安全グッズをホームページや「CAMPING」で紹介する。

キャンペーン活動の具体化

「Camping Safety 2008」マニュアルを作成し、全国の都道府県キャンプ協会に配布する。支部協会や会員の協力を得て、安全なキャンプの普及のためのキャンペーンを行う。

- ・キャンプまたはデイキャンプ中に、「安全なキャンプのために」の小冊子等を配布し、安全を学ぶ機会を作り出す。
- ・キャンプ安全の日又はキャンペーン期間中に各地でイベントを行う。

新冊子の作成と配布

「安全なキャンプのために 9」を作成し、キャンプ指導者や愛好者、関連団体等に広く配布する。

今までに作成した「安全なキャンプのために」を必要に応じて増刷し、キャンプ指導者や愛好者等に配布する。

4. 野外活動指導者のためのリスクマネジメントセミナーの開催

野外活動の各フィールドでの実践的な研修を通して、野外活動や自然体験活動の指導者の安全対策での資質向上を図る。

野外活動指導者のためのリスクマネジメントセミナー

施設・機関・団体等の自然体験活動・野外活動・野外教育関係の指導者を対象として、全国2会場（近畿・九州）でリスクマネジメントセミナーを開催する。

期 日：平成20年12月から平成21年3月までの間

主 催：(社)日本キャンプ協会 【共催：(財)関西テレビ青少年育成事業団】

主 管：大阪府キャンプ協会（近畿会場）、福岡県キャンプ協会（九州会場）

全国各地域でのリスクマネジメントセミナー開催への後援、講師派遣協力など

都道府県キャンプ協会や全国の関係団体で開催されるセミナー等の後援や、講師派遣などの協力をする。

5. 安全教育プログラムの普及・改編

キャンプ・野外活動指導者や愛好者のための安全教育プログラム、リスクマネジメントエクササイズ（RME）の普及を行う。また、より使いやすいものにするために新たな問題を作成し、ルールブックの見直しと必要な改編を行う。

- ・リスクマネジメントエクササイズ（RME）をリスクマネジメントセミナー等で実施するほか、支部協会、係団体等の協力を得て各地で実施し普及を図る。
- ・全国事務局担当者会等でリスクマネジメントエクササイズを実施し、支部協会の方々へ体験してもらう機会を設ける。

4) 調査・研究に関する事業

調査を通じて得られる内外の情報を整理し、広く提供していくことが調査・研究に関する事業の役割である。また、指導者がキャンプを実施する際に必要な多様な情報は、指導者同士で共有されることによって、その価値を高めることが出来る。本年度は、各種調査結果の分析と、キャンプミーティング in ジャパンの充実を柱に、さらに有益な情報を広く提供・共有できるよう、以下の事業を行う。

1. 第12回 Camp Meeting in Japan - 日本キャンプ会議 - の開催

国内外のキャンプの実践報告や研究発表を通じて、情報の活性化とともに指導者間の交流を促す機会として開催する。

期 日：平成20年5月24日（土）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

内 容：キャンプの実践報告、研究発表、全体会またはシンポジウム等

2. 「キャンプ研究」の刊行

寄稿なども取り入れ、国内外のキャンプの実践者や研究者が成果を発表できる場として発行する。

- ・年3回発行 第12巻第1号 - 5月 第12巻第2号 - 9月 第12巻第3号 - 1月
- ・「特集」コーナーを活用する。
- ・実践報告の充実のため「キャンプのまとめ - 実践報告の手引き」を作成する。

3. 「キャンプデータブック2008」の刊行

- ・B5版の小冊子に今年のトピックをまとめる。
- ・独自調査を盛り込んだ内容へ発展させていく

4. キャンプ関係書籍・資料データベースの運営

- ・ホームページのシステム変更に伴い、新たな運営方法を検討する。

5. 会員調査の実施

- 昨年度実施した「キャンプディレクター2級指導者の実態・意識調査」の集計・分析を行う。

5) 情報サービスに関する事業

本協会の事業内容やキャンプ・野外活動の動向等を広く一般の人々に知らせること、またキャンプの教育的な意義を一般の人々にわかりやすく伝え、野外教育界の広報を担い、キャンプの普及・振興に資することが本事業の役割である。あわせて日本キャンプ協会の認知度を高める広報活動を積極的に展開していく。

1. 実際の体験機会を通じた広報活動

- 各支部・各専門委員会・企業等と連携し、全国各地で行われる家族向けイベント等で、プログラム提供や冊子配布などを通してキャンプおよびキャンプ協会の広報を図る。

2. キャンプ・インフォメーションセンター

- キャンプ協会の窓口として、各種キャンプ、指導者、キャンプ場の紹介、用具、図書、情報等についての相談に応じる。また、キャンプのアクティビティシートを引き続き作成し、随時公開していく。

相談およびマスコミ対応

アウトドアパスポートを作成し、全国の小中学校で配布する。

アクティビティシートの作成(活動の内容、指導の仕方をまとめたもの)

3. ITを有効活用した情報発信

ホームページを活用した情報発信

- 各支部・各専門委員会等と連携し特に一般向けのコンテンツを充実し、広報効果の拡大を図る。

メールマガジンの発行

- 常に新しい情報を配信し、会員への周知をはかる。

セキュリティ面の強化

- 会員や支部協会が安心して利用できるようセキュリティ面の充実を図る

4. 会報「CAMPING」の発行

- キャンプに関する情報の提供および会員相互の情報交換のための会報を隔月に発行する。「現場で役立つ情報をわかりやすく提供する」をコンセプトに紙面づくりをすすめていく。

- ・年6回発行

第122号 4月1日 第123号 6月1日 第124号 8月1日 第125号 10月1日

第126号 12月1日 第127号 2月1日 (各25,000部発行)

5. オフィシャルレポーターによる会員ニーズのマーケティング

- ・オフィシャルレポーターによる定期的モニタリングを継続して行う。

6) 国際交流事業

国際交流事業は、アジア・オセアニア・キャンプ連盟 (Asia Oceania Camping Fellowship / AOCF) ならびに国際キャンプ連盟 (International Camping Fellowship / ICF) を通じた国際交流事業を中心に世界のキャンプ文化の共有化を図る。また、10月にカナダで行われる国際キャンプ会議参加ツアーを実施し、会員に国際交流の機会を提供するとともに、他国のキャンプに対する関心を高める情報の提供に努める。これらの活動は、2009年10月台湾で行われるアジア・オセアニア・キャンプ会議にむけた助走となるものでもある。

1. AOCFの組織強化に向けた支援

AOCF事務局(日本キャンプ協会内に設置)への積極的支援を行い、加盟各国のメンバー間の交流や情報交換を促進し、さらに、キャンプ協会未設置国や活動がまだ十分にできていない国への支援を進める。また、国内向けに日本キャンプ協会の実施する国際交流事業についての広報活動も積極的に行う。

AOCF事務局機能の整備に対する支援

- ・ホームページの充実・メールマガジンの発行など
- ・ICFとの事業協力、役割分担に向けた取り組み(会員募集・管理事務を含む)
- ・その他、会員向けサービスの開発

第3回アジアキャンプ会議開催に向けた支援

2009年秋に台湾で開催される第3回アジアキャンプ会議準備作業、広報に関する支援を行う。

第8回国際キャンプ会議に向けた準備

2008年10月にカナダ・ケベックで開催される第8回国際キャンプ会議に向けたツアーの設定や広報についての計画、NCAJあるいはAOCFとしての役割について検討する。

ICF等を通じた世界各国との情報交換と国内に向けた情報発信

ICF(国際キャンプ連盟)を通じて世界各国との情報交換を進めるとともに、それらの情報をわかりやすく加工して、AOCFホームページやCAMPINGを通じて会員に伝え、国際交流事業に対する理解を深める一助とする。

- ・ホームページ、CAMPING等を活用した情報発信
- ・全国大会などの機会を通じた情報発信

2. キャンプ指導者交流事業

モンゴルキャンプ協会との相互交流プログラム

- ・日本の指導者のモンゴルへの派遣
 - ・モンゴルの指導者の日本への受け入れ(朝霧野外活動センター等での受け入れ:時期未定)
- ACA(アメリカキャンプ協会)全国大会への参加

第8回国際キャンプ会議(International Camping Congress 2008)が開催されます

今秋、カナダ・ケベックシティで開かれる国際キャンプ会議に参加しませんか「In living colors(ありのままの姿)」という大会テーマのとおり、世界中のキャンプ関係者が集い、さまざまに異なるキャンプ文化の相互交流を図ります。日本キャンプ協会では、会員のためのツアーを実施します。会議だけでなく、秋のカナダの美しい自然を楽しめるツアーになるよう計画中です。

ぜひご参加ください!

【ツアー概要】

日 程: 2008年9月30日(火)~10月9日(木)

(国際キャンプ会議は10月4日~7日)

ポイント: ケベック・キャンプ場ツアーで秋のカナダを満喫。

国際キャンプ会議ではケベックシティ400周年記念イベントなど楽しいプログラムもたくさん企画されています

費 用: 約40万円(燃料サーチャージ等が別途必要です)

取 扱 い: JTB法人東京



ユネスコ世界遺産の街 ケベックシティ

7) 支部活動の支援とキャンプにおける諸基準の整備・評価等に関する事業

キャンプのムーブメントは、各地域で行われている一つひとつの活動の中に込められた願いの拡がりである。それ故、キャンプ活動の最先端に立つ支部協会がいつも元気で活動的でなければ、キャンプの普及振興は「画に描いた餅」となる。そのために、支部のポテンシャルを引き出す現場主義に立った支部活動の支援体制を作りだすための整備を図る。

1. 支部活動の支援

日本キャンプ協会の実働の最先端である支部協会がいつも元氣、活動的であることが、キャンプの普及の基盤となる。そのために、支部のポテンシャルを引き出す現場主義に立った支部活動の支援体制を作る。

支部事務局担当研修会の開催

「支部運営マニュアル」を作成し、それをテキストに、事務局担当者もしくはその候補者を対象に、組織運営、会計などを学ぶ研修会を全国3カ所程度で開催する。各委員会と連携して実施する。

朝霧会場	日程：6月7日(土)～8日(日) 内容：人材育成 会計 組織のマネジメント
愛知会場	日程：10月25日(土)～26日(日) 内容：人材育成 イベント企画 広報
東京会場	日程：2009年1月17日(土)～18日(日) 内容：会計 広報 組織のリスクマネジメント イベント企画

支部活動推進キャラバンの実施

支部等で行う普及イベント、インストラクター養成、指導者研修など、支部を訪問し実施・支援する支部活動推進のためのプロジェクトチームを組織し派遣する。

キャンプ用品、用具の配布

多くの人々に安全で楽しいキャンプを普及するため、助成団体よりの補助金を受け、全国の支部協会に、キャンプ講習会、研修会、各種組織キャンプ、ファミリーキャンプ、キャンプ大会等で活用できるテント等のキャンプ用備品を配布する。*(財)日本宝くじ協会に、テントの助成金を申請する。

2. BUCの承認

指導者が新しい情報を入手し、キャンプにおける学びを深めることと指導者相互の信頼関係をつくることをねらいとして、Brush Up & Communication (BUC) を積極的に展開実施する。

3. 規程やガイドラインの整備

キャンプによる社会貢献を押しすすめるために「公益法人としての協会のあり方」をあらためて認識してさまざまな事業に関するガイドラインの整備を行う。

4. アク्रेディットキャンプ(公認キャンプ)等の制度化検討

安心して参加できるキャンプ、より優れたキャンプを多くの人々に告知・公開するために、日本キャンプ協会アクレディットキャンプ(公認または推薦のキャンプ)の制度化を継続して検討する。

5. キャンプ場の認定

「優良・認定キャンプ場認定制度」によるキャンプ場の認定を行う。認定を受けたキャンプ場については、協会HPなどを通じ公表するとともに協会内外の人々への周知を徹底する。また、申請を受ける体制づくりを進める。

6. 指導者保険、キャンプ保険の充実

指導者会員の活動をサポートするために指導者賠償責任保険の適用を継続する。

指導者賠償責任保険（東京海上日動火災保険株）の適用

- ・指導者がキャンプを実施し、引率指導中の参加者に事故が起き、指導者が損害賠償責任を負うことによって被る損害が補償される。

補償限度額 対人賠償責任(他人の身体傷害に対する賠償) 1名5,000万円、1事故3億円
対物賠償責任(他人の財物損壊に対する賠償)1事故1,000万円

キャンプ保険

公認指導者が実施するキャンプの参加者が低廉な保険料で加入できる保険を推進する。

- ・キャンプ保険（協会専用の補償制度）
- ・キャンプの参加者(含む指導者)がキャンプ参加中に負った傷害事故を補償。

【一人あたりの保険料】

1泊2日以内367円 3泊4日以内443円 6泊7日以内519円 8日以上は個別照会

補償金額	死亡・後遺障害保険金額	1,000万円	
	入院保険金額	日額	4,000円
	通院保険金額	日額	4,000円
	賠償責任限度額	1億円（免責なし）	（東京海上日動火災保険株）

デイプログラム保険

公認指導者が実施する日帰りプログラムの参加者が低廉な保険料で加入できる保険を推進する。

- ・デイプログラム保険（協会専用の補償制度）
- ・デイプログラムの参加者(含む指導者)がプログラム参加中に負った傷害事故を補償。

一人あたりの保険料は50円/1日（プログラムの内容によっては250円、500円もある）

補償金額	死亡後遺障害	保険金額	1,000万円	
	入院保険金	日額	5,000円	
	通院保険金	日額	3,000円	（損保ジャパン(株)）

8) 出版に関する事業

キャンプについての内外の情報や技術を、出来るだけ多くの人々に知らせること。とりわけ、キャンプの現場で活動している指導者にそれらの内容を紹介することを通して、キャンプを行う層の拡大や知識の深化を図るために関連の書籍を出版する。

1. 「キャンプ指導者入門」の改訂

キャンプインストラクター養成講習会に使用する「キャンプ指導者入門」の改訂を行い増刷する。

2. 「キャンプディレクター必携」の改訂

キャンプディレクター養成講習会に使用する「キャンプディレクター必携」の改訂を行い増刷する。

3. ISBNコードの付記

日本図書コード管理センターへ申請し、出版物のISBNコード付記を行う。

4. 書籍の出版

キャンプの楽しさや有用性をより多くの人々に知らせるために、書籍の出版を計画する。

9) 朝霧野外活動センター

静岡県立朝霧野外活動センターの指定管理者となって2年目を迎えることになるが、施設や地域のポテンシャルを継続的に発掘し、利用者へのソフト提供力の増進を図る。また、周辺地域との連絡を密にしながら、朝霧の地にある野外教育の拠点としての特色を鮮明に打ち出し、朝霧野外活動センターの独自性を形作っていくことを目標とする。

1. 主催事業

青少年自然体験事業

事業名	日程	対象	備考
冒険キャンプ in 朝霧	7月6日(日)	小学5～6年生	事前研修
	8月2日(土)～10日(日)	中学1～3年生	本研修

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	備考
宿泊利用団体 担当者研修会	4月18日(金)	利用団体の担当者	
	9月7日(日)		
	09年2月13日(金)		
野外活動のノウハウ実習	4月19日(土)	利用団体の担当者	
長期キャンプ指導者 養成講習会	6月7日(土)～8日(日)	専門学校生 短大生 大学生	全4回参加が前提 8/2～8/10は冒険キャンプ in 朝霧と同時開催
	7月5日(土)～6日(日)		
	8月2日(土)～10日(日)		
	10月18日(土)～19日(日)		
野外教育指導者 養成講習会	09年2月6日(金)～8日(日)	野外教育に興味のある人 青少年団体の指導者 教育関係者	
	09年3月6日(金)～8日(日)		

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	備考
ちょっといい春感じませんか	4月26日(土)～27日(日)	家族・小グループ	
ステキな秋をあなたに	10月4日(土)～5日(日)	家族・小グループ	
オリエンテーリング in 朝霧	11月29日(土)～30日(日)	家族・小グループ	

施設開放事業

事業名	日程	対象	備考
プラネタリウム一般開放	毎月1回 日曜日(原則)	家族・小グループ	13:15～14:45
スケート一般開放	11月～3月の日曜日(原則)	家族・小グループ	13:00～15:30 16:00～18:30
朝霧カーニバル	11月9日(日)	どなたでも	
スケートキャンプ	12月12日(金)～13日(土)	家族・小グループ	2009年
	1月16日(金)～17日(土)		
	2月20日(金)～21日(土)		
	3月13日(金)～14日(土)		

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	備考
ホッとキャンプ	3月10日(火)～13日(金)	不登校児童・生徒 ひきこもりがちな青年	2009年

2. 運営目標

健全な施設管理・財政運営を行う。

テントサイトの充実を図る。

地域資源の開発により、参加者へのソフト提供力を上げる。

近隣施設、財産区等との協議を重ね朝霧地域の共同体の一員として地域貢献を果たす。

年間利用者数 62,838人を目指す。(本館棟:42,898 キャンプ場:19,940)

10) 総務・財務

本年12月の特例民法法人化に始まる公益法人改革の手順に則り、早期の公益社団法人化を目指して作業に着手する。また、協会役員の定年制導入後、初めての年度を迎えることとなるので役員、専門委員等の改選が円滑に行われ、新しい法人形成に向かって一丸となった取り組みが出来るように配慮する。

1. 諸会議の開催

総	会	5月24日(土)・H21.3月20日(金)							
理	事	会 5月24日(土)・H21.3月7日(土)							
常	務	会 随時							
運	営	会 議 毎月							
全	国	事	務	局	担	当	者	会	5月25日(日)・H21.3月21日(土)
ブ	ロ	ッ	ク	会	議	上記、全国事務局担当者会時及び各地で1~2回程度			

2. 日常総務事務

会員情報管理

会費請求 VISA・口座振替・郵便振替の会員に各時期

名簿管理(入出力) 年間6,000~7,000の入力

事業方針・計画・予算の管理 日常経理事務 収益事業の運営管理 助成金事務 人事管理・研

修 他団体との窓口 諸規定(程)の整備

日本キャンプ協会のホームページで最新情報をチェックしよう【「会員のひろば」登録の方法】

まず、[日本キャンプ協会](#)のホームページを開きます
「TOP画面が出たら「会員向けページ」をクリック
右の画面が出てきます SNS「会員のひろば」
この「会員のひろば」は、会員相互交流のためのSNSです。「会員のひろば」に入るためには、あらかじめ登録が必要です。閲覧、参加を希望する場合は web@camping.or.jp へあなたのお名前と会員番号をメールの本文に記入し送信して下さい。

web@camping.or.jp から招待状が届きますので、その指示に従って登録を完了して下さい。

